

楷書

賢愚経 (大聖武)

伝聖武天皇 奈良時代・七四〇年以降

教科書 32ページ 東京国立博物館蔵

釈文

如是我聞。一時仏在舍衛国祇樹  
給孤独園、尔(爾)時波斯匿王最大夫  
人、名曰摩利、時生一女。字波闍羅。  
晋言金剛、其女面狼、極為醜惡。肌  
(体麁洪。…)

書き下し文

是くの如く我聞く。一時仏舍衛国祇樹給孤独  
園に在り。尔(爾)の時波斯匿王の最大夫人、  
名を摩利と曰い、時に、一女を生む。波闍羅  
と字し、晋に金剛と言う。其の面狼、極めて  
醜悪と為す。肌(体麁洪にして、…)

大意

このように私は聞いている。あるとき仏(仏陀)は舍衛国祇樹給孤独園におられた。そのとき波斯匿王の第一夫人で、名を摩利というものが、一女を生んだ。波闍羅と名づけられ、漢語では金剛という。その女の面貌は、極めて醜悪であった。肌は(粗くて黒く、)

